

役目を終えた化粧品を新たな“彩り”へ 豊島が「Cy:Make」を本格展開

快適なライフスタイルの提案を進める豊島株式会社（本社：名古屋市中区、代表取締役社長：豊島晋一）では、さまざまな回収・循環素材やプロジェクトを展開しています。これらの取り組みを総称し、豊島の資源循環スキームを表す名称として「OurCycle(アワサイクル)」と名付け、日常にある多様な“捨てられてしまうもの”を、豊島ならではの仕組みを通して新たな価値へとつなげる提案を行っています。

「OurCycle」の取り組みの1つとして、役目を追えた化粧品を“彩り”として再生し、新たな製品へと循環させるプロジェクト「Cy:Make(サイメイク)」を本格展開します。

これまでに、本プロジェクトのもと、ルミネが2026年1月2日～2月4日の期間に開催した「ルミネ・ニューマン エシカーニバル」において、“ルミ姉ガチャ”のキーホルダーや、アイルミネで販売されるコースターを制作しました。



■「Cy:Make」について

多くの化粧品メーカー・色材メーカーにおいて、研究・開発工程や品質を維持するために市場に出せなくなってしまう化粧品バルクが、やむを得ず廃棄物として処理されている現状があります。また、日常生活の中でも、使い切れないまま役目を終える化粧品が発生することは一般的な課題として認識されています。

「Cy:Make」は、化粧品をインク化する独自技術を持つ株式会社モーンガータ(本社：東京都練馬区、代表取締役：田中 寿典、HP: <https://man-gata.com/>)と協業し、役目を終えた化粧品を「彩り」として再生し、新たな製品へと循環させるサーキュラープロジェクトです。コスメメーカーの研究開発過程などでの役目を終え、やむを得ず廃棄になっていた化粧品や、日常生活を送る中で使い切れなかったコスメを回収し、インク化します。独自の技術によりインク化されたコスメは、繊細なラメ感やニュアンスカラーを保ったまま生地や雑貨へと生まれ変わり、独自の表情を持つプロダクトとして再び暮らしの中に届けられます。本プロジェクトで使用するインクは、掻き出したコスメを粉碎・攪拌(かくはん)したものと、コスメ由来の顔料(使用期限が過ぎ化粧料の顔料としては使用しなくなったものの、工業用ではまだ使用でき、かつ品質が良いもの)を混ぜて調色し、それを溶剤と混ぜて作られています。

■ 2026年1月2日～2月4日に開催した「ルミネ・ニューマン エシカーニバル」での商品企画について

ルミネが2026年1月2日～2月4日の期間で開催した「ルミネ・ニューマン エシカーニバル」において展開した、“ルミ姉キーホルダー”や、“ルミ姉コースター”を、Cy:Makeプロジェクトで制作。原料には、株式会社ルミネと株式会社モーニングスターが協業して回収・分別した不要コスメの一部が使用されました。両社は家庭内に眠っている不要コスメの回収・分別量を高め、更なる資源循環の促進に寄与することを目指し、ルミネが運営する店舗にて、不定期で不要コスメの回収を実施しています。

関連リリース：

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000068237.html>



■ OurCycleについて

豊島が展開するさまざまな回収・循環素材やプロジェクトや取り組みを総称して「OurCycle」と名付け、資源を無駄にしない循環の仕組みづくりを通じてみなさまの「豊かなくらし」の実現に貢献することを目指しています。

〈OurCycle プロジェクト群〉

Our Cycle



- ・ 未活用食材を染料として再活用する「FOOD TEXTILE」
<https://foodtextile.jp/>
- ・ 日本国内の海岸で回収されたペットボトル等をリサイクルし、新たな製品として生まれ変わらせる「UpDRIFT®」
<https://updrift.jp/>
- ・ 日本国内で廃棄された繊維製品を再循環させる「WAMEGURI」
<https://my-will.jp/service/wameguri/>
- ・ 役目を終えた化粧品を“彩り”として再生し、新たな繊維製品へと循環させる「Cy:Make」



■ 豊島株式会社 <https://www.toyoshima.co.jp/>

1841年の創業以来、180年を超える歴史を礎に、グローバルな原料調達から最終製品の企画・生産管理・納品まで、ライフスタイル産業のサプライチェーンを総合的に担っています。様々なニーズに寄り添うため、事業領域を雑貨・コスメ・食品へと拡大。サステナブルプロジェクトの推進に加え、多種多様な連携による価値創造や、テクノロジーを活用した新たな価値提案にも注力しています。2019年より掲げるステートメント「MY WILL（マイウィル）」のもと、持続可能なライフスタイルの実現に向けて挑戦を続けています。